

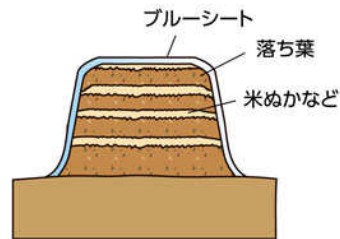
■落ち葉堆肥と生ごみ堆肥

園芸研究家●成松次郎

【落ち葉堆肥とは】

広葉樹の中でも、ケヤキ、コナラ、クヌギなどが堆肥材料に適しています。落ち葉堆肥とは、落ち葉に米ぬか、油かす、骨粉などの有機質肥料を加えて発酵させた物で、肥料分を含んだ堆肥になります。

図1 落ち葉堆肥の作り方



【落ち葉堆肥の作り方】

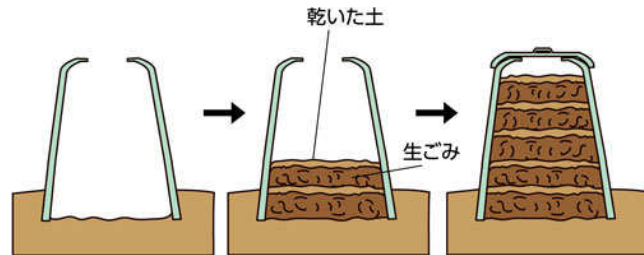
(1) 壁を利用したり、ベニヤ板でコの字形などの囲いで堆積場を作ってもよい。

(2) 落ち葉を 20cm 程度の厚さに積む。米ぬかや油かすなど(落ち葉の重さの 1~2%程度)をサンドイッチ状に積み重ね、水をたっぷりまいて踏み固める。

(3) これを繰り返して 1m くらいに積み上げる。

(4) 1カ月に 1回程度切り返し、落ち葉がボロボロに崩れてきたら(1年程度)完成です(図1)。

図2 生ごみ堆肥の作り方



【生ごみ堆肥とは】

有機物である生ごみを微生物の働きで堆肥としてリサイクルすることができれば、ごみの減量に役立つだけでなく、地力を高めることもできます。

生ごみの 90%以上は水分で、残りの大部分が有機物です。乾燥させて水分を飛ばすだけで減量し、元の重さの 5 分の 1 以下になりますが、これは堆肥ではありません。生ごみに米ぬかや油かすなどを加えて発酵させた物が生ごみ堆肥です。

【生ごみ堆肥の作り方】

(1) 釣り鐘形のプラスチック容器(コンポスターなどの名称で販売)やポリバケツ(ふた付き)の底を切り取った容器を、土中 20cm 程度の深さまで埋める。

(2) 水を切った生ごみを投入し、同量の乾いた土や落ち葉を重ねて入れる。容器が満杯になるまで繰り返す。悪臭や虫の発生を抑え、ごみの分解を早めるために、米ぬかをまぶしておくが良い。

(3) 満杯になった後、1 カ月以上放置しておく。一般家庭では、200L 程度の容器を 2 個使い、1 個目が満杯になったら 2 個目にごみの投入を始めれば、ほぼ年間を通して生ごみの処理と堆肥作りができる(図 2)。

なお、生ごみ堆肥は窒素を 5%程度含み、肥料効果が高いため、生ごみ堆肥だけで栽培するときは、1 平方 m 当たり 3~4kg にします。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。